

II 特別連載 II

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第295回

新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、さくらサイエンスプログラムでも招へいが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出し機関と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援を続けている。今回は愛媛大学と神戸大学が実施したオンラインプログラムについて紹介する。

愛媛大学の活動報告



安原 英明 (愛媛大学大学院理工学研究科教授)

アジア3大学とのオンライン交流会

愛媛大学工学部では、JSTのさくらサイエンスプログラムによる助成を受け、2020年度採択分としてプログラムを計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて今年度に延期となり、さらに今年度の実施も難しいと判断されたため、オンラインで交流会を実施することとなりました。2021年夏に各大学とスケジュール調整を行い、マレーシアのマラヤ大学とは11月9日、インドネシアのガジャマダ大学・バンドン工科大学とは11月18日にそれぞれ交流会を実施しました。オンライン交流会のプログラムは次のとおり。

ガジャマダ大学の紹介

- 1 各大学の教員による挨拶、大学紹介
- 2 短期交流プログラムの説明
- 3 各大学のオンラインキャンパスツアー
- 4 質疑応答、交流



バンドン工科大学の紹介



マラヤ大学の紹介

【マラヤ大学】

マラヤ大学の学生が司会を務めてくださり、明るく楽しい雰囲気で開催された。また、「4質疑応答、交流」の時間には大学所在地や大学の良いところや観光地、文化など気になることをお互いに質問し合い、情報交換を行いました。オンラインではありましたが、交流中は学生どうしで積極的に声を掛け合い、活発なコミュニケーションをとることができました。また、Zoomのチャット機能を使って、同時進行で活発な質疑応答が行われる一面もあり、オンラインならではの交流も自然と発生していました。

【ガジャマダ大学・バンドン工科大学】

過去に愛媛大学への短期交流プログラムに参加したことがある卒業生が、ゲストとして参加し、当時の思い出やプログラムの詳細について写真などを交えて紹介してくれました。また、全体プログラム終了後に希望者でプリークアウトルームを作成し、学生同士で自由に交流を行いました。この時間も盛り上がり、短期交流プログラムに対する要望や、今後コロナ禍でも交流を続けていくためのアイデアについて多くの発言がありました。

愛媛大学からは、インドネシアやマレーシア他からの留学生も参加し、愛媛大学への留学経験者として愛媛での生活について語ってください、相手大学の学生に愛媛大学での具体的な学生生活の様子をお伝えすることができました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、実際にお互いの国へ行き来することは難しい状態ですが、このような機会を与えていただいたことで、互いの現状について顔を見ながら話すことができ、大変有意義な時間となりました。今後も愛媛大学では短期交流プログラムを継続して行い、関係大学との交流を深めること

で、愛媛大学・日本のグローバル化に貢献できるような活動を続けてまいります。
最後に、さくらサイエンスプログラムならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

【参加者概数】
マラヤ大学とのオンライン交流会

マラヤ大学・学生約50名、教員4名
愛媛大学・学生27名、教員6名
●ガジヤマダ大学・バンドン工科大学とのオンライン交流会
ガジヤマダ大学・学生約60名、教員4名
バンドン工科大学・学生約60名、教員7名
愛媛大学・学生19名、教員4名

神戸大学の活動報告



伊藤 博通
(神戸大学大学院
農学研究科教授)

スリランカ・インドネシアの農科大学との交流プログラム

昨年11月に科学技術研修コース「環インド洋におけるSDGs達成のための農業環境工学技術研修」を実施予定のところ、コロナ禍の中で昨年に引き続き中止を余儀なくされました。本コースの来年度への延期はできないので、来年度のさくらサイエンスプログラム新規申請時の研修内容を想定し、留学生の来年度の参加動機を高めるため、JSTの支援により、2021年11月18日にZoomを利用した、さくら招へいプログラム代替オンラ



オンライン交流会

次にZoomのブレイクアウトルーム機能を使用して参加者は上記4グループに分かれ、神戸大学学生による詳細な説明および参加者との質疑応答が行われました。これを2回繰り返したので参加者は最大2つのグループの研修内容について詳細を知ることができました。教員と学生の違いを問わず非常に活発な質疑応答が実施されました。
最後に、説明した研修内容で来年度のさくらサイエンスプログラムに申請し、実施予定であることを確認し、参加国教員は積極的に参加する意思があることを表明しました。半日ではありましたが、参加者の来年度のプログラムへの動機が高まり非常に有意義な交流会でした。

イン交流会を実施しました。海外の参加機関はスリランカのルフナ大学農学部農業工学科インドネシアのボゴール農科大学農業工学科およびアンダラス大学農業技術学部です。神戸大学の教員と学生を含め、全参加機関から105名が参加しました。
はじめに土佐幸雄農学研究科長による神戸大学と農学研究科の紹介、農学研究科教務学生係準事務員の堀純子さんによる神戸大学への留学についての説明がありました。次に研修コースの概要説明を行いました。この内容は来年度に申請予定の研修内容であります。本研修は4グループで構成されており、次のような説明を行いました。

- ・伊藤博通教授・人工気象機内で栽培する葉草の成長を画像解析により非破壊で計測する手法についての説明。
- ・黒木信一郎准教授・異なる温度条件に貯蔵したホウレンソウ葉の脂質過酸化物質や抗酸化酵素活性、DPPHラジカル消去能を計測し、鮮度保持効果の定量的な評価を行う手法についての説明。
- ・井上一哉准教授と鈴木麻里子助教・地下水資源の有効活用に係わる日本特有の地下ダムを対象に、ポラス性の高い岩石とダム止水壁の物性推定や強度特性の計測についての説明。
- ・澤田豊准教授・農業用パイプラインの設計方法、矢板を用いたパイプラインの施工方法とその課題、パイプラインを対象とした模型実験についての説明。